

リビアン オートモーティブ(RIVN)

【セクター】 電気自動車 (EV) 信買  
 【市場】 NASDAQ 信売

【企業概要】

2009年に創業した米電動 (EV) トラックメーカー。2021年11月に上場しました。主に消費者向けEVのピックアップトラック「R1T」とSUV「R1S」、商用EVの「EDV」を展開しています。「R1T」、「R1S」、「EDV」はいずれも2021年に生産および納車を開始しました。「R1」シリーズより低価格帯の「R2」シリーズも開発しており、2025年に生産を開始する予定です。「EDV」は主要株主のアマゾンと共同開発したもので、アマゾンから10万台を受注しています。2025年までの納車を目標としています。

【業績】 (単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース)

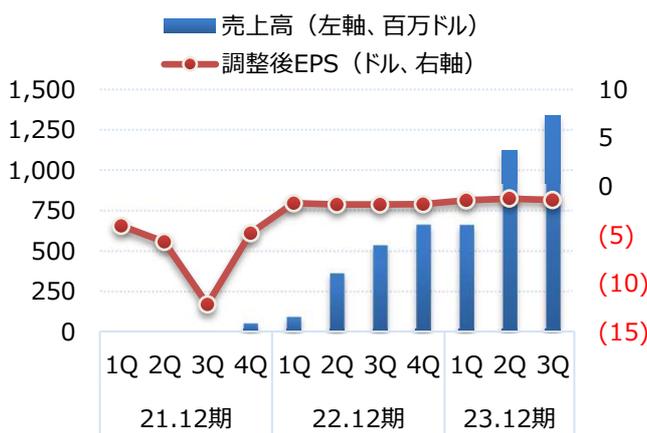
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.12期	55	-4,247	-20.82	0.00	21.7	-	87.5
22.12期	1,658	-6,752	-7.40	0.00	14.9	-40.5	77.2
23.12期 (予)	4,408	-4,685	-4.93	0.00	10.1	-43.0	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

(出所) BloombergのデータよりSBI証券作成

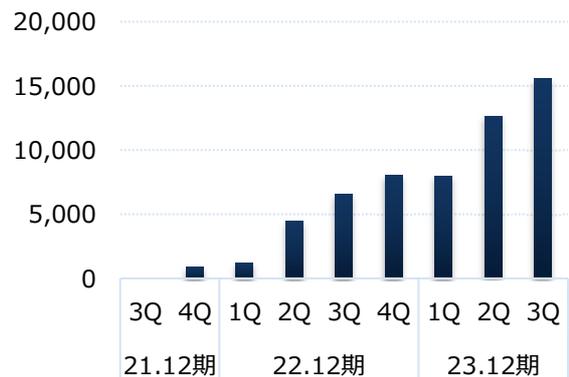
【主要指標】

売上高と調整後EPSの推移 (四半期ベース)



(出所) BloombergデータよりSBI証券作成

納車台数の推移 (四半期ベース、台)



(出所) 会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

アマゾンが支援しているEVメーカーで、「次のテスラ」との期待もあります。2021年に上場した後、2021年から2022年半ばまでは生産の立ち上げに苦しみました。2022年半ば以降はサプライチェーンや生産体制の問題を克服し、生産を拡大しました。それにより売上高は拡大し、損失額は緩やかながら徐々に縮小。「収益性を達成するための一連のステップ」(経営陣のコメント)を進めています。アマゾンにEVバンを独占的に販売する契約は2023年11月に終了。これにより同社は他の企業にもEVバンを販売できるようになります。納入規模の拡大とコスト削減により、2024年までに損益分岐点の達成を目指しています。「次のテスラ」になれるかどうかはまだ見極める必要がありますが、生き残る可能性は高まってきたと言えます。

【見通し・注目点】

3Qは売上高が13.4億ドル(前年同期は0.5億ドル)に拡大し、市場予想を上回りました。調整後1株当たり純損益も-1.19ドル(同-1.57ドル)となり、市場予想より改善しました。販売拡大を背景に、車1台当たりの損失額が2Qよりやや改善しました。経営陣は、電動ピックアップトラックとSUVに対する需要は堅調だと表明。今年の生産台数予想を5.4万台に小幅に上方修正しました。EV市場の需要見通しが総じて弱いことを踏まえると、今後の販売実績を確認する必要があります。

## 本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

## 手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。